

令和6年度 第1回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

<日時> 令和6年8月19日(月) 14:00~16:00

<場所> 宇治市役所 大会議室

<出席者> (委員:19人出席/24人中)

安藤会長、迫副会長、鎌田委員、工藤委員、坂口委員、坂本委員、出張委員、藤井委員、柳委員、池田委員、池本委員、上西委員、木本委員、前畑委員、杉本委員、松井明恵委員、幸道委員、松井敏子委員、土井委員

(事務局:20人)

教育部 福井教育部長、川崎教育部副部長、武田教育支援センター長、
柯教育総務課長、福山生涯学習課長、安留学校教育課長、
大槻学校改革推進課担当課長、堀江教育支援課長

福祉こども部 波戸瀬福祉こども部長、雲丹亀福祉こども部副部長、
川北地域福祉課長、畑生活支援課長、富治林障害福祉課長、
永池こども福祉課長、松井保育支援課長、栗田保健推進課長、
山田こども福祉課副課長、久保こども福祉課子育て企画係長、
大石保育支援課計画係長、加藤こども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 1人

<会議内容>

1 開会

【会長】定刻になりましたので、会議を開会します。なお、本日の会議は「宇治市子ども・子育て会議の会議の公開に関する要項」に基づいて公開としています。

2 新任委員紹介

- ・事務局より、資料1「宇治市子ども・子育て会議委員名簿」に基づき、5名の新任委員を紹介
- ・事務局より、会議の役割などについて、資料2「宇治市子ども・子育て会議」についてに基づき、説明が行われた。

3 現計画について【報告】

(1)「宇治市子ども・子育て支援事業計画」及び「宇治市子どもの貧困対策推進計画」における令和6年度の主な取り組み状況について

- ・事務局より、資料4「宇治市子ども・子育て支援事業計画」及び「宇治市子どもの貧困対策推進計画」における令和6年度の主な取り組み状況についてに基づき、説明が行われた。

【委員】今年度7月より新しくこども誰でも通園事業が実施されていますが、保育所への負担等を含めて実施状況を教えてください。

【事務局】本市では、11 施設においてこども誰でも通園制度を実施しています。7月の実績については、現在集計中ですが、市民の皆様からの問い合わせをいただいている状況です。実施につきましては、各民間施設に実施のご意向を確認し、実施可能な施設で体制を整えていただき事業の実施をしております。

【委員】こども誰でも通園制度を実施したことで、一時預かりの日数が減ったり、月10時間だけの利用では何もできない等の保護者の声を聞いたのですが、市への問い合わせ状況について教えてください。

【事務局】今後実施していく中で、利用者の皆様にアンケート調査を実施してまいりたいと考えておりますので、その辺りを集計させていただき、各園からの報告を分析させていただきながら、よりよい事業の推進に努めてまいりたいと考えています。

【委員】【拡充】保育士確保対策強化事業費について、公立保育所において保育士資格を持っていない方や嘱託職員、新規職員等へのフォローや、教育方針の徹底を行っていただけるのか、また、保育を行う上で、子どものためにつながるような人材を雇っていただけるのかを教えてください。

【事務局】当該事業は、主に民間園への補助となっておりますが、公立保育所においても多くの保育士が活躍している状況でございます。資格のありなし等、様々な職員がおりますが、本市や、京都府の開催する研修に参加いただき、それぞれスキルアップしながら、保育の質の向上を目指しているところでございます。

【委員】こども誰でも通園制度ですが、具体的に何歳から何歳までが対象で、子どもの人数に対してどれくらい先生が対応されるのか、また何時間利用できるか等、具体的な情報が示されていないように思えますので、これから詳細が決まっていくのか等、教えてください。

【事務局】実施の要件といたしましては、既に実施している一時保育事業の扱い同様に、保育士1人の配置が必要などございます。また今年度につきましては試行的事業ということで、国からも示されておりますとおり、1人一月当たり10時間との上限がありますので、本市事業におきましても、それに倣いながら実施をしているところでございます。また、対象年齢は、0歳6か月から3歳までです。

【委員】実際運営している立場から申し上げますと、取りあえずいろんな課題はあるのですが、何より最優先しなければならないのは、子どもを社会全体で育てる風土の醸成だと思います。従来の一時的預かりの様に、利用される一部のリピーターだけに目を向けるのではなく、社会全体でもうちょっとターゲットを広げていければと思います。また、試行ですので様々なことがあるのですが、たとえ1時間でも、この1時間も相当うれしいというような市民の方のお声を頂いております。一方で、先ほどもご意見ありましたように、中には切実なお悩みをお持ちの方もおられるとは思いますが。私の運営している園では、こども誰でも通園制度で定められた時間はあるのですが、可能な限り保護者のニーズに応えられるよう努めています。いずれにせよ、様々な声や課題を集めて、それを制度設計に反映できるような情報を収集していきたいと思っております。利用者の方には、すごく喜んで頂いている現状です。

【事務局】この制度自体は社会全体で子どもを育てるということから始まっている制度です。そのことを念頭

に置きながら、各実施施設との意見交換を交えて、よりよい事業の実施につなげてまいりたいと考えてございます。

【委員】一時預かり事業とこども誰でも通園制度の違いについて、例えば、一時預かり事業を利用しているこども誰でも通園制度を利用できないか教えてください。また、こども誰でも通園制度を利用した際に料金がかかるのかについても教えてください。

【事務局】一時預かりはどちらかというと保護者さんの都合により、子どもを預かる事業です。一方、こども誰でも通園制度は、子どもの成長に着目し、定期的に利用することによって、社会全体での成長を見守っていく制度であり、目的が一時預かり事業とは異なります。利用時間は、誰でも通園制度のみに定められており、試行的事業については月 10 時間です。また利用料は、各施設において様々ではございますが、一般的に、一時預かりは 1 回当たり 1700 円程度で、こども誰でも通園制度は、1 時間当たり 300 円程度です。一時預かりとこども誰でも通園制度は併用ができますので、例えば、こども誰でも通園を利用した後に一時預かりを利用することも可能です。

4 現計画について【議題】

(1) 令和 5 年度における「宇治市子ども・子育て支援事業計画」及び「宇治市貧困対策推進計画」の進捗状況等について

・事務局より、資料 5-1「令和 5 年度「宇治市子ども・子育て支援事業計画」及び「宇治市子どもの貧困対策推進計画」の内部評価結果について」に基づき、説明が行われた。

5 次期計画について【報告】

(1) 宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査等の調査結果について

・事務局より、資料 6-1「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書(その1)」、資料 6-2「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書(その2)」、資料 6-3「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書(その3)」、資料 6-4「宇治市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書 概要資料」に基づき、説明が行われた。

【委員】就学前児童の保護者向けに、問 42 として保護者の用事やリフレッシュのために不定期にお子さんの預かり事業を利用したいかの設問に対し、多胎児のいる世帯については 70%の方が利用の必要がないと回答されておられたのですか。

【事務局】はい。回答頂く母数自体が少なかったため、今回の調査結果ではそのような傾向が見られました。

【委員】小学校 1 年生から 2 年生の回答がないのはなぜでしょうか。また、幼稚園児は、一時保育等の支援がありますが、登校拒否児(ひきこもりの子ども達)の内、小学校 1 年生から 3 年生までの支援で抛り所がなく、保護者の余裕がなくなると感じています。市はどの様に考えておられますか。

【事務局】小学校 1 年生から 2 年生については、低学年ということもあり、回答が難しい部分もあるということも踏まえ、正確な回答ができるのは小学校 3 年生程度以上であるという認識から、今回は小学校 3 年生以上を対象にアンケートをとらせていただいております。

【事務局】小学校 1 年生から 3 年生の児童が学校に行きにくい場合、学校に相談していただくのが最善である

と思いますが、中には学校には相談したくない方もおられると思います。その様な場合は、教育支援課や生涯学習センターの4階で運営しております「Ujiふれあい教室」への相談をご案内しています。

【委員】調査結果について、5年前と今の違いについても言及されていて、とても興味深く、今後の施策にぜひ取り入れてもらえたらいいなと感じています。1つ目の気になる点として、就学前の保護者アンケート問29「遊び場で困ること」について、5年前と今回も雨の日に遊べる場所がないとの回答割合が非常に高く示されています。この回答に対して、5年間でどのくらい雨の日に遊べる場所が増えたのかお示しいただければよいのではないかと思います。また、最近夏がとても暑く、40度を超える日もあり、公園では遊ばせることができない状況です。雨の日、夏場、冬場等、気候変動にも対応できる子ども達にとっての遊び場の整備は必要だと思います。私の場合は、雨の日に遊びに行く場所として、近隣の城陽市へ車で行って、室内で遊ばせていますので、宇治市にもっと遊べる場所がほしいと感じています。また、土日に空いている施設も少ないので、いつもネットで空いている施設を探しています。2つ目に、子育てと親の不安の質問で、経済面と子どもしつけに対しての不安がある点について、共感しました。先程、委員がおっしゃったように社会全体で子育てを行う風土に、経済としつけの視点も加えてほしいと思います。特にしつけは、子どもを親がコントロールしなさいと思われているのではないかと私は思っていて、私がちゃんとしつけなければとか、人の目のあるところで余り大きな声を出さないよう等、社会の目を気にして、子育てをしてしまうようなことがあります。「1人で頑張らなくてもいいよ」というような風土ができると安心できると思います。3つ目に、父親が休む日が増えたことはとても喜ばしいことです。しかし、父親の出勤時間が7時～8時台のため、結局子どもの朝の送り出し等は母親することが多いとの結果は、この5年で余り変わっていないと感じています。最後に、母親の就労希望について、パートやアルバイトのままがいいとの割合が高いですが、数値を鵜呑みにしないでほしいです。この割合が高いのは、子育てと両立する上での条件や働きやすさからくる結果だと思います。そのため、正社員で働きやすかったら、正社員を望む保護者は、結構いるのではないかと考えています。一度正社員をやめてしまうと、もう一度復帰するのはとても難しい社会ですので、働きやすい環境になれば、子育てもしやすい環境になるのではないかと思います。

【事務局】夏場や雨の日を含めた子どもの遊び場については、様々な可能性や他市の状況を含めて、検討を進めてまいりたいと思います。また、母親の方が子どもを送り出す状況が多いことや、アルバイトを選択しているのは子育ての環境に応じた選択肢となっているご意見も踏まえて、これから施策を考えてまいります。

【委員】小学生（小学3年生以上）は、341件のみの回答ですが、「今、楽しくて夢中になれるものがある」子どもの割合が高いと思いました。幼い頃はゲーム制作等なりたい夢が明確な一方で、成長するとあまり夢を言わない子どもが多いと感じていますので、今回のアンケートで子ども達のなりたい将来の職業が知れて嬉しいです。子ども達が将来なりたい職業に就くためには、何を学ぶ必要があるか等、学校において指導してくださる先生が増えていくととってもいいなと思いました。また、子ども達が、子育てしやすいまち、教育が充実しているまち、市政がしっかりしているまちに住みたいと考えていることに驚き、嬉しく思いました。そして、令和5年度における「宇治市子ども・子育て支援事業計画」及び「宇治市貧困対策推進計画」の進捗状況等の評価BやCについて、例えば、資料5-3宇治市子どもの貧困対策推進計画 具体的施策評価シート42頁に記載のある産業振興課の事業評価について、市政だよりで周知をしているものの、参加者が少ない回があり、参加者の増加に向けた検討が必要であるためC評価

となっています。課題に対しては、待っているだけでなくアウトリーチで、本当に必要な人に声をかけていくことも必要だと思います。また、同様に産業振興課の商店街の付加価値を高める共同利用施設店舗の運営・改修への補助事業について、補助金交付がなく評価Cとなっていますが、地域の方たちと一緒に考えて、土日や雨の日の遊び場が欲しいと思っている方たちの想いも実現できる活用方法を考えられるといいのではと思いました。今回の評価やニーズを考えていく上で、土日に子どもが遊べる場所の確保や、働き方（土曜出勤、フレックス、正職員等）を調査し、働き続けてもらうことが最善なのかの検討を含めた、子育て支援計画であってほしいと思います。他の高齢者や認知症等の計画においても重視されている共生社会を実現するため、各市町村において、重層的な支援体制を構築していただき、みんなが暮らしやすく過ごすための子育て支援施策を考えていかないといけないと、子ども達が願う子育てしやすいまちにならないと思いました。

【事務局】様々なご意見をいただきありがとうございました。自由記載欄については、項目を増やすと、答える方の負担が大きくなってしまいますが、今回の調査では多くの方にご回答いただいております。いただいたご意見を施策に反映し、考えてまいります。また、他の計画にも関連するところも確認し、次期計画を考えてまいります。

【事務局】教育委員会といたしましても、子ども達の前向きな声が、アンケート調査を通じて把握できましたので、学校への情報を共有を行いながら、子ども達の想い等をしっかりと共有してまいりまして、学校教育の改善に取り組んでいきます。貴重なご意見ありがとうございました。

【委員】手続的なことでお願いがあります。10月の第2回会議で、事務局のほうから骨子案や素案をつくられるかと思いますが、会議は限られた時間でやることになるので、今回のニーズ調査の結果を受けて、例えば事前に各委員にアンケートを取る等の工夫を行い、各委員の想いを反映した骨子案等をつくってほしいです。また、アンケート結果ではそれほど顕著ではないのですが、子ども達のネット上の友達とかの関係性がやっぱり深くなり、知らない人と繋がったり、会いに行くことに抵抗がなくなっている子どもが増えていると京都府警から聞きましたので、そのような課題もあることを認識していただき、次期計画に入れるかの検討をお願いします。

【事務局】骨子案、素案に関しては、委員の皆様の意見を反映させていただくための方法等を検討してまいります。また、インターネットや生活環境についても検討してまいりたいと思います。

【事務局】SNSに関連する問題事象というのは、大きな課題にはなっておりますので、引き続き学校中心に取り組んでまいります。また、コロナ禍もありましたので、子どもたちの中で様々な交友関係が生まれ、変化しています。そういったことも踏まえ、関係機関と連携しながら、教育に取り組んでいきたいです。また併せて、保護者の方も巻き込みながら、SNSに関わっても、しっかりと家族で見ていただくことができるように、保護者の皆様への周知も含めて、地域の協力を得ながら取り組みを進めていけたらと考えております。

【委員】私も多胎児のいる世帯なので、70%の方が「不定期に子どもを預ける必要がない」と回答されたことについて考えましたが、多胎児だと子どもが小さいうちから、両親と同居することを考えたり、通常のご家庭とは異なる様々な方法を考えるので、預ける必要がないのかもしれないと思いました。例えば、双子だと利用料金は2人分かかりますし、出かけるのも一苦労ですので、短時間の預かりだと諦めているかもあるのではないかと思います。なので、預ける必要がないだけではなく、預

けたくても預けられない人もいると思いました。そして、公園ですが、遊具等が老朽化等を理由に遊具が撤去され、子ども達が遊びに来なくなり、公園が閑散としてしまった事例があります。資料6-3で遊べる公園や遊具を増やしてほしいとの意見が多く出ておりますので、公園緑地課と連携してほしいと思います。また、商店街の空き家の活用の補助金ですが、自分から調べていかないといけないことも多くあるので、わかりやすく相談できたり周知していただければと思います。

【事務局】多胎世帯へのアンケートですが、母数が少ない状況ではありますが、数字以外の本当の理由は何かを把握する検討も必要だと思います。また、部局間の連携は課題となっておりますが、次期計画を策定する上で、公園緑地課等の他部署との協議も行っています。補助金ですが、様々な制度があるためわかりにくいものになっているのは課題だと思いますので、引き続き検討してまいります。

【委員】小学生、中高生の回答の中に、「いじめのないまち」、「差別のないまち」に住みたいとの回答がありました。スクールカウンセラーやいじめ対策の窓口等の対策を行っていますが、自由回答で子どもからこれらの意見が出たことについて、軽視することなく更なる対策を取っていただきたいです。

【事務局】小中学校で、年3回いじめに関するアンケートを行っていますが、その時だけでなく、何かあればすぐに学校の教員やスクールカウンセラー等に相談できる体制を取りつつ、魅力ある学校づくりについても学校と連携をとり、行ってまいります。

【委員】毎回この遊び場の課題に関しては上がってきます。公園公社については、様々な形で宇治市や京都府からの補助金を活用した整備が行われていますが、結局は子ども達が自分の足で行ける範囲の公園を整備しないと、遊び場がないのと同じだと思います。検討で終わるのではなく、公園の整備に取り組んで頂きたいです。公園がどういう利用がされているのか、また、利用されている公園とされていない公園の違いは何かを明確に精査することで、全ての公園を充実させるのは無理かもしれないけど、例えばこのエリアのこの公園だけは手入れしよう等の検討を後回しにせず、具体的に行っていただきたいです。また、夏の暑さをしのぐための日よけの設置等の検討を行っていただき、未来の子ども達が家にこもってしまわないような対策の検討を具体的にお願います。そして、資料6-1の170頁「出産しやすい環境や支援を満足度」については、3が最も多いですが、満足度は全体的に結構低いと思います。出産に関しては、家事援助、産後ケア事業や助産師さんのサポートもされていますが、宇治市では宿泊を伴ったケアは、他市に比べてまだまだ足りないと感じています。保護者に安心して子育てしていただく環境を整備していただき、子育て支援の現場からも紹介できるように制度を充実させてほしいと思います。

【事務局】出産後は保護者が最もしんどい時期だと思いますので、十分に保護者に寄り添いながら、どういった対応ができるのかを引き続き対応と検討をしてまいります。

【事務局】遊び場に関するご意見たくさん頂いております。公園整備に関しては別部署ではございますが、今日頂いたご意見をしっかりとお伝えしながら、次の計画にどの様に生かしていくかの検討をしていきたいです。併せて宇治市では、子ども達にとって、まち全体で様々な経験ができる遊び場にしようということで、いくつかのモデル事業に取り組んでいます。地域ぐるみで子育てをして、子ども達が様々な経験を得ることができるよう取組を併せて、総合的にやっていきたいと考えています。また、委員からご意見があった通り、委員の皆様の意見を聞きながら計画をつくっていきたくておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

【委員】私事ですが、小学校2年生の子どもが幼稚園の頃から登校拒否を繰り返しており、発達相談をしてもらったところ多動傾向があることがわかり、普通学級から特別支援学級へのクラス替えを希望したのですが学校に断られてしまいました。親は、子どもにとって行きやすく、楽しめる環境で学校に通わせたいと思いますので、対応を考えていただければと思います。

【事務局】学校においては、子どもの状況を見て、どういう教育が子どもにとって最良となるかを考え、お話を進めさせてもらっていると思います。特別支援学級と普通学級は、それぞれ目的等がございますが、引き続きお子さんにとってどういう支援が本当いいのか、学校としっかりと相談をしていただくことが大事だと思います。

【委員】資料6-3で多く要望を寄せられている、「遊べる公園を増やしてほしい」や「保育料金を安くしてほしい」、「子育て支援全般を充実してほしい」、「子育てと仕事の両立」等は、早急に解決してほしいです。アンケートの結果は、子育てしている親からするととても共感できますし、子育てにやさしいまちうじを実現するなら優先して解決してほしいです。また、他の委員が言っていたように、子どもを預けたいけど預けられない現状が本当にありますので、解決策をご検討いただきたいです。

【会長】京都では看護学校が閉校していくような状況になっています。保育士養成校や幼稚園の先生の養成等、人を増やせなければ施策は実現できないだろうし、何より保育士や先生になりたいと思える施策を考えることも必要です。今後の10年も含めて、人材をどう確保するか、また風土を作っていくことを、総合的に考えていかないと、様々な課題は解決しないと思います。

(5) その他報告事項

【事務局】皆様今日は活発なご議論頂きましてありがとうございました。様々な課題については、今後しっかりと議論をしていきたいと思っております。会長から、保育士の人材不足含めて、様々な分野で課題をご指摘いただきました。課題解決のためには、市だけではなく、国・府全体で取り組む必要があるかと思いますが、今後もいろいろとご意見頂けたらと思っております。また、事務局からもご説明させていただきましたけれども、今回の計画策定に当たりましては、10月末から11月にも会議を行い、まず計画初案をつくっていきたいと考えております。皆様には引き続きご理解、ご協力を賜りますことをお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

閉会